

第61回年次大会 領域2の招待講演およびシンポジウム提案と 領域からの推薦について

第61回年次大会の招待講演およびシンポジウム講演に関して、領域2から、1件の招待講演および5件のシンポジウム提案がありました。それらの提案に関して、領域2のアドバイザリーボード（AB）において、平成17年11月14-17日の間にメール会議を行いました。

招待講演に関しては特にコメントはありませんでしたので、領域2からの推薦としました。また、シンポジウムの5件については、上記メール会議で活発な議論がなされ、そこでの議論を参考に領域代表により3件（プライオリティ付け有り）を推薦案として提示、再度ABに図りました。その推薦案に対して特にコメントはありませんでしたので、それら3件を領域2からの最終的な推薦としました。

これらを11月25日に開催された領域委員会・物性領域プログラム委員会において提案・審議していただき、その結果、1件の招待講演および3件のシンポジウムはともに了承されました。

アドバイザリーボード（AB）での議論については、平成17年11月18日付の領域代表からABメンバーに送付した資料を参考下さい。

平成17年11月28日

領域2代表 岸本泰明

副代表 小野 靖

第61回年次大会 領域2のシンポジウム提案と領域からの推薦について

平成17年11月18日

領域2代表 岸本泰明

副代表 小野 靖

日本物理学会第61回年次大会における領域2のシンポジウム提案に関して、物理学会事務局ないしは領域2の定めた締め切り期間内に所定の手続き（インターネット入力、ないしは、領域2の招待講演・シンポジウム申し込み用紙）により申し込みのあった以下の5件の提案を受け付け、これらに対してアドバイザリーボード（以下、AB）において、平成17年14-17日の間にメール会議を行いました。合計4名のABメンバーからご意見をいただきました。このABでの議論を参考に、領域代表及び副代表で、領域2からの推薦を以下のように決定いたしましたので報告いたします。

提案者・提案タイトル

- (1) 伊藤早苗：「Multiple scale nonlinear dynamics in plasmas」
- (2) 草野完也：「大規模シミュレーションで拓くマルチスケール・フィジックス」
- (3) 兒玉了祐：「高エネルギー密度状態の科学への期待と課題」
（注：領域会議において、提案者を兒玉氏から領域代表（岸本）に変更した）
- (4) 小関隆久：「ITER 燃焼プラズマ研究が拓く物理」
- (5) 岸本泰明：「原子・分子過程が関与したプラズマの相乗的複雑性と構造形成」

尚、本提案の内、提案(3)（兒玉氏）については、平成17年10月15日付の PlasmaML でお知らせした通り、平成17年9月20日に開催された第2領域運営会議において了承された「高エネルギー密度状態の科学（第1キーワード）」（世話人：阪大レーザー 兒玉氏・高部氏）の企画の一環としての提案である。

領域2からの推薦及び推薦順位

- 推薦1. 兒玉了祐：「高エネルギー密度状態の科学への期待と課題」
（注：領域会議において、提案者を兒玉氏から領域代表（岸本）に変更した）
- 推薦2 伊藤早苗：「Multiple scale nonlinear dynamics in plasmas」
- 推薦3 草野完也：「大規模シミュレーションで拓くマルチスケール・フィジックス」

その他の提案に対するコメント

提案(4) は、今回のABでの議論を踏まえて検討を加え、次回以降に提案することを勧める。

提案(5) は、提案締切り時に未定項目があったこと、および、その状況で提案者と領域代表が重複することから、公平性・透明性の観点から今回は推薦を見送る。締切り時に不完全な箇所がある場合や、領域代表及び AB メンバーが提案者である場合等については、今後領域 2 において議論を行い、規則を策定する。

各提案に関する主要な議論

提案(1) 伊藤早苗：「Multiple scale nonlinear dynamics in plasmas」

- ・ 主旨が明確であり領域の重点的な方向に合致しているので強く推薦する。
- ・ 春の時点から前振りがあり、秋の運営会議でも提案されている。内容からも異論はない。
- ・ 領域 2 の方向性を示しており、また内容も明確なので賛成。もうすこし明確なタイトルの方が分かり易いのでは。
- ・ 前回の informal で提案している。

提案(2) 草野完也：「大規模シミュレーションで拓くマルチスケール・フィジックス」

- ・ 興味ある話題だが計画をねってから実現すれば魅力が増す。提案の趣旨を考えると、他の領域と共同計画にすることで最先端の課題をよりよく紹介できるようになるのではないか。
- ・ 本提案は、提案(1) とバッティングしている。本来ならば、提案(1)の企画と相談、他領域との連携などを検討すべきではないか。
- ・ マルチスケールの何を主題とするか良く分からない。
- ・ 企画はおもしろいので 3 学会共催セッションのシンポジウムで提案し直す。

提案(3) 兒玉了祐：「高エネルギー密度状態の科学への期待と課題」

- ・ 主旨が明確であり領域の重点的な方向に合致しているので強く推薦する。
- ・ 春の時点から運営会議などで説明をされており、さらにブラッシュアップされていると思いますので、是非取り上げるべきである。
- ・ すでにオーソライズ

提案(4) 小関隆久：「ITER 燃焼プラズマ研究が拓く物理」

- ・ 現段階の主旨では、昨年に企画したシンポジウムに比べ進歩が少ないと感じられる。もっと物理学としてのインパクトを明瞭にした主旨を考え計画を提案すべきだと思う。
- ・ ITER については是非取り上げたい課題であるが、提案内容が弱く他の企画とは競争力が感じられない。しかしながら、領域としてもがんばりどころなので、最低次回には AB にあげて企画すべき。

- ・ タイムリーな話題であり、賛成。
- ・ どちらかといえば、核融合学会むきのテーマ、物理学会でやるならもう少し物理に焦点をあてるべき。物理に焦点をあてるなら核融合研や原研の方より、大学や他分野をメンバーに入れるべき。来年の連合講演会で企画した方がいいのでは。

提案(5) 岸本泰明：「原子・分子過程が関与したプラズマの相乗的複雑性と構造形成」

- ・ 講演者が未定の段階では準備が不十分。領域代表が提案者なので、アドバイザーボードにかけて推薦すると一般会員に不透明感を感じさせる。
- ・ 個人的には最も sympathy と興味を引かれますので押したいが、講演者が未定、領域代表が提案者などの問題がある。
- ・ 現時点で6（未定後援者）がはっきりしないのなら6は削除であろう。提案そのものには賛成。（ABメンバーが提案者の場合、透明性の確保は重要。一方で、代表がこういう提案で明確な方向性を示すことも問われていると思う）

推薦のプライオリティー（4名から言及）

A氏： プライオリティーに関するコメント

[1] 主旨が明確であり領域の重点的な方向に合致しているので強く推薦する。

提案（1）提案（3）

[2] 興味ある話題だが計画をねってから実現すれば魅力が増すと思う。

提案（2）提案（4）

[3] 準備が完了していないので次回以降に

提案（5）

B氏： プライオリティーに関するコメント

[1] 是非、採択されたい（1）（3）

[2] できれば、採択されたい（5）

[3]（1）と並列、他領域との連携が可能であれば（2）間に合わなければ次回

[4] 次回にADも主体的に検討に加わり企画すべき（4）

C氏： プライオリティーに関するコメント

優先度は、（4）、（1）、（5）、（3）

D氏： プライオリティーに関するコメント

（3）、（1）、（5）、（2）、（4）

追加： 領域2 から招待講演の推薦

「大型ヘリカル装置 LHD における周辺プラズマ物理の研究」

講演者： 増崎貴氏（核融合科学研究所）

提案者： 水内亨氏（京都大学）